

4 . 排水処理センター報告

(山口大学における排水処理状況報告 (2004年度))

排水処理センター 藤原 勇

2004年度の排水処理状況を以下に示す。内訳は無機系廃液、有機系廃液、写真廃液、生活排水があり、それぞれの回収量、処理水量および排水の状態を示している。

無機系廃液の状況

無機系廃液は、2004年度は年6回回収を行った(表1)。フェライト法による廃液処理を1回目は2004年8月9日 - 8月14日に、2回目は2005年1月31日 - 2月5日の2回行い合計2,368リットルを処理した。なお、処理水のBOD濃度が高いため希釈して放流した。処理量の内訳を表2-1に示す。さらに、本装置で処理しにくい廃液と処理できない廃液を併せて2,319リットルを(有)大新金属商会によって学外処理を行った。フェライト法により処理された後の処理水および処理前の水質調査の結果を表2-2、2-3に示す。排出基準以下になった処理水は吉田地区の下水道排水に合流する。処理工程で発生したスラッジは倉庫に保管している。

有機系廃液、写真廃液の状況

有機系廃液は、年4回分別回収されて(有)大新金属商会により引き取られ焼却処理が行われた(表1)。有機系廃液は、産業廃棄物廃液(産廃)と特別管理産業廃棄物(特管)とを区分して示した。写真廃液は年3回回収を行い(有)大新金属商会により処理を行った。なお定着液には銀が含まれているが銀濃度が低いため処理費を払って処理した。

下水道排水等の状況

6月と12月には常盤地区(工学部)、小串地区(医学部、病院、医短)及び吉田地区(その他の学部)の下水道排水口水質調査を行った(表3)。吉田地区の4部局の実験洗浄排水が流れ込む枡の排水の水質を6月および12月に調査した(表4)。また、地方自治体の下水道管理課による採水結果(2005年2月9日、22日)を表5に示す。各地区の排水の採取地点を図1に示した。

その他

- 1) 2004年度の排水処理運営費決算表を表に示した(表6)。2004年度から大学が法人化されて予算決算の様式が変更されたのに基づいて作成した。
- 2) 2004年度の廃棄ポリタンクの集計表(表7)及び新規ポリタンクの配布表(表8)を示した。
- 3) 2004年度の吉田地区pH異常についての記録をそれぞれ建物毎(図2)、時間毎(図3)、pH毎(図4)、曜日毎(図5)について整理して示した。